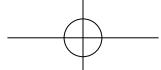




赤塚四・五丁目地区
景観まちづくりプラン





目 次

1. わたしたちのまちの魅力と課題 2

1-1 地区の現況 2

(1)みどりの状況

(2)建物の状況

1-2 地区の魅力 3

(1)起伏の豊かな地形が生む変化のある眺め

(2)大小さまざまなみどりが織りなす潤いのあるまちなみ

(3)重層的な歴史が編み出すまちなみ

(4)地区住民の交流・地区への愛着を育む様々な活動(アクティビティ)

1-3 地区の景観の課題 7

2. 赤塚四・五丁目地区景観まちづくりプラン ビジョン編一 8

2-1 プランの目的と使い方 8

2-2 景観まちづくりの方向 9

(1)景観の将来像

(2)景観まちづくりの方針

3. 赤塚四・五丁目地区景観まちづくりプラン アクション編一 11

3-1 景観まちづくりの取り組みアイデア 11

(1)地区の特徴的な景観の魅力をより引き出すデザインアイデア

(2)共通の景観まちづくりの取り組みアイデア

3-2 赤塚四・五丁目地区景観まちづくりのルール案 17

3-3 景観まちづくりのモデルプラン 19

3-4 景観まちづくりの取り組みに向けて 22

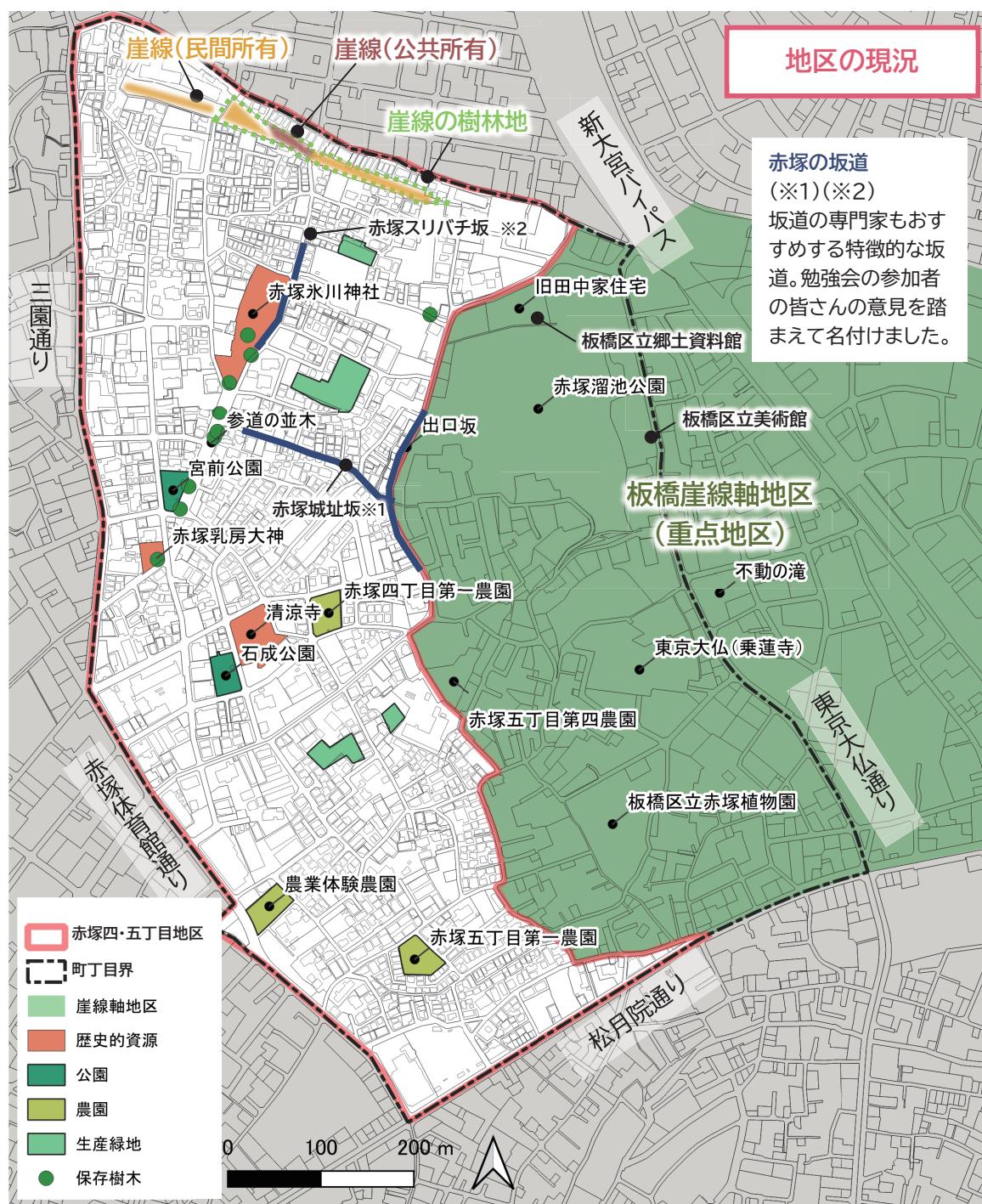
1. わたしたちのまちの魅力と課題

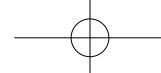
1-1 地区の現況

赤塚四・五丁目地区(以下、「本地区」という)は、板橋崖線軸地区と隣接し、崖線周辺に点在する神社仏閣などの歴史的資源や、崖線をはじめとした緑豊かな自然があります。

私たちが普段目にしている地区の眺めは、このような資源が組み合わさった姿といえます。中でも、多くの人々が魅力的と感じる眺めは、自然や歴史、文化などの資源が「暮らし」の日常と何気なく調和している風景です。

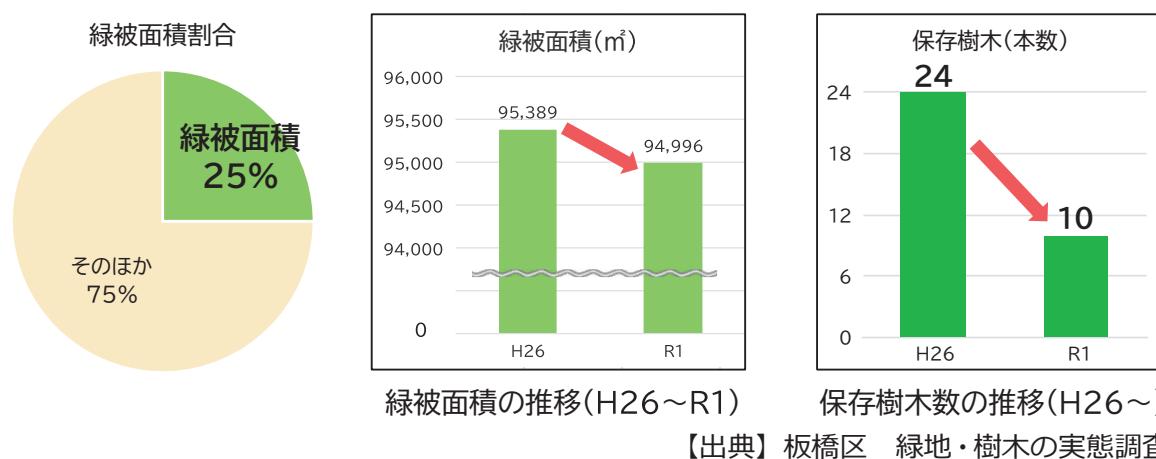
以下では、本地区の資源の状況とそれらが生み出す魅力的な景観を紹介します。





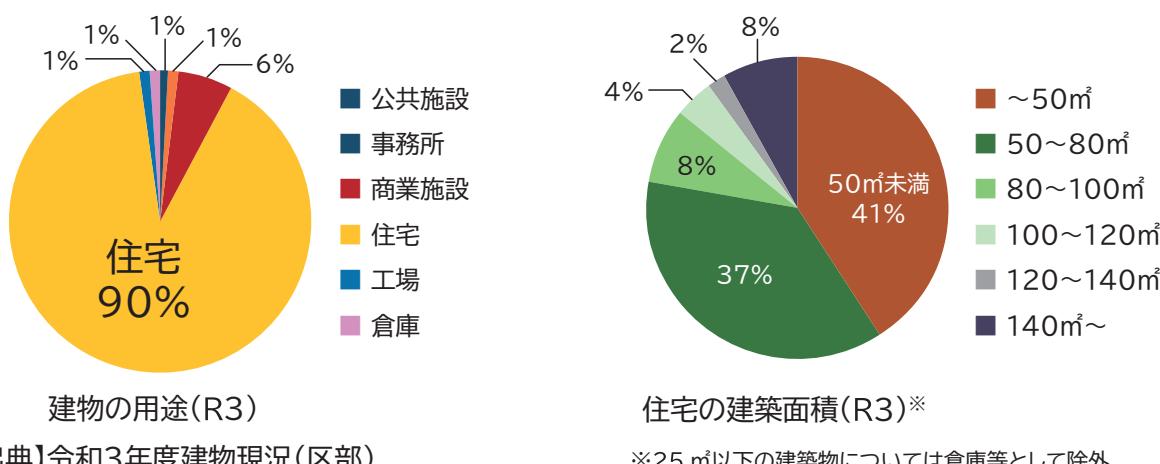
(1)みどりの状況

緑の量を示す指標として、「緑被率」があります。緑被率とは「樹木でおおわれている部分」や「草地」、「農地」等の緑被地の面積が全体面積に占める割合を指します。板橋区の緑被率(R1)は約19%に対し、本地区の緑被率は約25%であることから、本地区は緑豊かな地区といえます。一方で、緑被面積の推移をみると、H26年からR1年にかけて減少傾向にあります。都市の美観風致を維持するために指定されている「保存樹木」の数も大幅に減少しており、みどりの保全が必要です。



(2)建物の状況

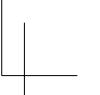
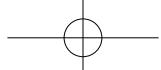
本地区の建物の状況を見ると、約90%が住宅であり、商業施設や工場施設は限定的です。住宅の建築面積を見ると、50m²未満の住宅が約41%と多くなっています。以上からも、本地区はコンパクトな住まいが集まり、親密なコミュニティが形成されている住宅地の景観であることが伺えます。



1-2 地区の魅力

(1)起伏の豊かな地形が生む変化のある眺め

本地区には、板橋崖線による斜面緑地のほかにも複数の谷筋がみられ、起伏の豊かな地形となっています。そのため、高低差を処理するための坂道や階段が随所に見られ、これらによって変化に富んだユニークな眺めが生み出されています。



変化のある眺めをつくりだす資源

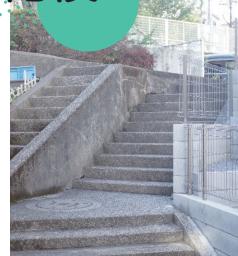
崖線



坂道



階段



暗渠



地形による魅力的な景観

●ダイナミックなスリバチ景観

スリバチ状の谷地では、ダイナミックな坂道の景観が楽しめます。谷地に沿って歩くと、動きを持った街並みによる感動的な体験が得られます。また、坂道や階段の上から見下ろしたり、下から見上げた時に視線が先へ先へと誘導されるような眺望を楽しむことができます。



赤塚氷川神社東側のスリバチ地形



赤塚城址を望む坂道



出口坂

●歩いて楽しめる小道の景観

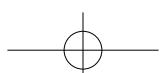
路地や階段、暗渠などの小道は軒先の縁との距離も近くなり、親密感のある街並みを楽しみながら歩くことができます。暗渠では地下の水の流れの音が聴こえ、小道を住処とする小動物たちにも出会えます。

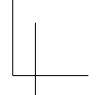
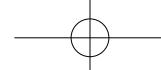


●俯瞰するパノラマ景観

崖上の歩道からは崖下の市街地がパノラマで見渡せます。

崖の上からはさいたま新都心や、晴れた日には遠く筑波山を望むこともできます。





(2) 大小さまざまなみどりが織りなす潤いのあるまちなみ

本地区は、赤塚城跡・都立赤塚公園の西側に位置し、自然と歴史と文化の里・武蔵野の香りが今なお残るエリアです。板橋崖線には貴重な緑地が残されているほか、赤塚氷川神社や赤塚乳房大神などには長い歴史のなかで大切にされてきた大径木があり、まちの景観に風格を与える地域共有の財産となっています。

また、住宅の植栽は彩り豊かで、大小さまざまなみどりが織りなす景観が赤塚地区の特徴です。

大小さまざまなみどり

崖線の緑



大怪木



生垣の緑



小さな緑



みどりがつくる様々な景観

●「崖線」がつくるみどり空間

崖線のみどりは北側低地の道路や公園などの公共空間から、見上げる形で見通すことができます。



●参道の並木

赤塚氷川神社の参道では壮観な並木が静寂で神聖な環境をつくりだしています。



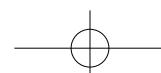
●シンボルツリー

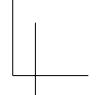
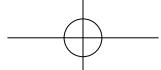
赤塚氷川神社の保存樹木など、地区内には存在感のある巨木がシンボルツリーとなっています。



●あふれだす小さなみどり

梅雨にアジサイ、秋にはピラカンサの赤い実がなるなど季節ごとにまちのみどりを形作っており、豊かな通り景観を生み出しています。





様々な楽しみ方ができるみどり景観

●おいしいみどり(農地)

地区内の区民農園では、区民らが野菜等を育てている風景が見られます。旬の野菜を収穫して食べる活動は「おいしい景観」を生み出しています。



●音で楽しむ

樹林に風が吹き抜けると、葉や梢がサワサワと自然音を奏で、音で景観を楽しむことができます。



(3)重層的な歴史が編み出すまちなみ

本地区は、鎌倉末期の文書に赤塚郷という地名が登場するなど古くから人の営みがある地区です。地区内には、赤塚氷川神社や清涼寺など歴史を感じられる資源が点在しています。また、かつては田畠が広がる田園集落であったこの地区で、農地やかつて水路だった暗渠からその頃の面影がみられます。

赤塚氷川神社



清涼寺



(4)地区住民の交流・地区への愛着を育む様々な活動(アクティビティ)

本地区には、農業を中心とした暮らしなど、地区の人たちによって紡がれてきた歴史があり、それらを今に伝え、みらいにつなげていく多くの活動が行われています。

神事



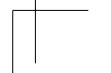
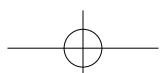
農に親しむ

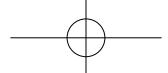


ハレの日^{※1}



※1 ハレの日：年中行事やお祭りを行う日のこと。





アンケート結果

地区のみなさんに魅力的と思う資源・風景を尋ねたところ、歴史・みどり・にぎわい・眺望などさまざまな資源・風景があげられました。

Q: あなたが、愛着がある、残していきたいと思う赤塚四・五丁目地区の魅力的な資源・風景を教えてください。(複数回答)

- 1位 歴史的な建築物(神社・寺院)(74%)
- 2位 公園(69%)
- 3位 大きな樹木(47%)
- 4位 祭りやイベントなどのにぎわい(44%)
- 5位 見晴らしの良い景色(42%)

1-3 地区の景観の課題

●地形の大きな改変により生じた圧迫感の軽減

高低差の多い本地区では、開発等に伴う地形の改変により擁壁が多くみられます。人工的な素材による無機質な高い擁壁は、通りに圧迫感をもたらします。

擁壁の形態や表層の仕上げ、みどりを付近に配置するなど、圧迫感を軽減する工夫が求められます。



●眺望を楽しむ視点場づくり

せっかくの眺望も木々によって視界が遮られていたり、くつろぎながら眺望を楽しむ場所がないなどの課題がみられます。眺望を楽しむ視点場づくりが求められます。

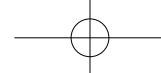


●みどりの「量」の維持・保全

本地区では近年宅地開発が進み、農地の転用に合わせてみどりの景観が失われつつあります。宅地開発の傾向としては、外構が無機質な新築住宅が多く、小さいながらも庭先のみどりを積極的に生み出していく工夫が求められます。

●みどりの「質」のさらなる向上

崖線のみどりについては、クズがはびこっていたり、擁壁になっていたりします。貴重な地域の財産である保存樹木も越境枝や落ち葉の問題で本来の樹形を残すことが難しくなっているケースもみられます。落ち葉などの維持管理も地区全体で取り組み、みどりを大切にしていく環境を整えていく必要があります。



2. 赤塚四・五丁目地区景観まちづくりプラン－ビジョン編－

2-1 プランの目的と使い方

● プランの目的

本地区は、「1.わたしたちのまちの魅力と課題」に示したように、起伏のある地形や大小さまざまなみどり、重層的な歴史を背景とした魅力的なまちなみの中で、地区住民のさまざまな活動が展開されています。一方で地形の改変による影響、みどりの維持保全や質の向上、景観に関わる地区住民の取り組みを活性化していくことなどが求められています。

「赤塚四・五丁目地区景観まちづくりプラン」(以下、「本プラン」という)は、本地区の景観の魅力と課題を明らかにした上で、本地区で目指したい景観の姿やその実現に向けた景観まちづくりの方向、さらに具体的な取り組み方策を示すことで、地区住民、事業者、行政が協働で魅力を活かした景観まちづくりの展開を目指していくための計画です。



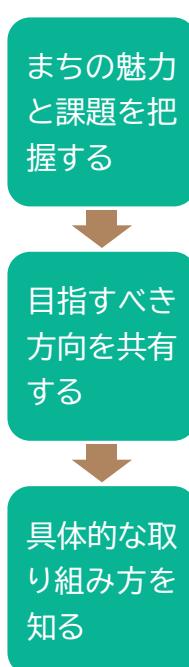
赤塚四・五丁目地区
町丁目界

● プランの対象範囲

本プラン対象地区は、右に示す範囲(赤塚四・五丁目地区)とします。

● プランの構成と使い方

本プランは、以下のような構成になっています。それぞれのパートの目的と使い方を示します。



1. わたしたちのまちの魅力と課題

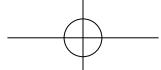
景観まちづくりを進めていく上では、まずはまちの魅力と課題を知っておくことが必要です。ここでは、「地形」「みどり」「歴史」「活動」の視点から、景観の特徴を記載しています。

2. 赤塚四・五丁目地区景観まちづくりプラン－ビジョン編－

景観まちづくりの取り組みは、立場の異なるさまざまな主体の協働により進めいくことが必要です。このパートでは、まちの魅力と課題を踏まえて、本地区におけるこれから景観まちづくりで目指していく方向(ビジョン)を記載しています。

3. 赤塚四・五丁目地区景観まちづくりプラン－アクション編－

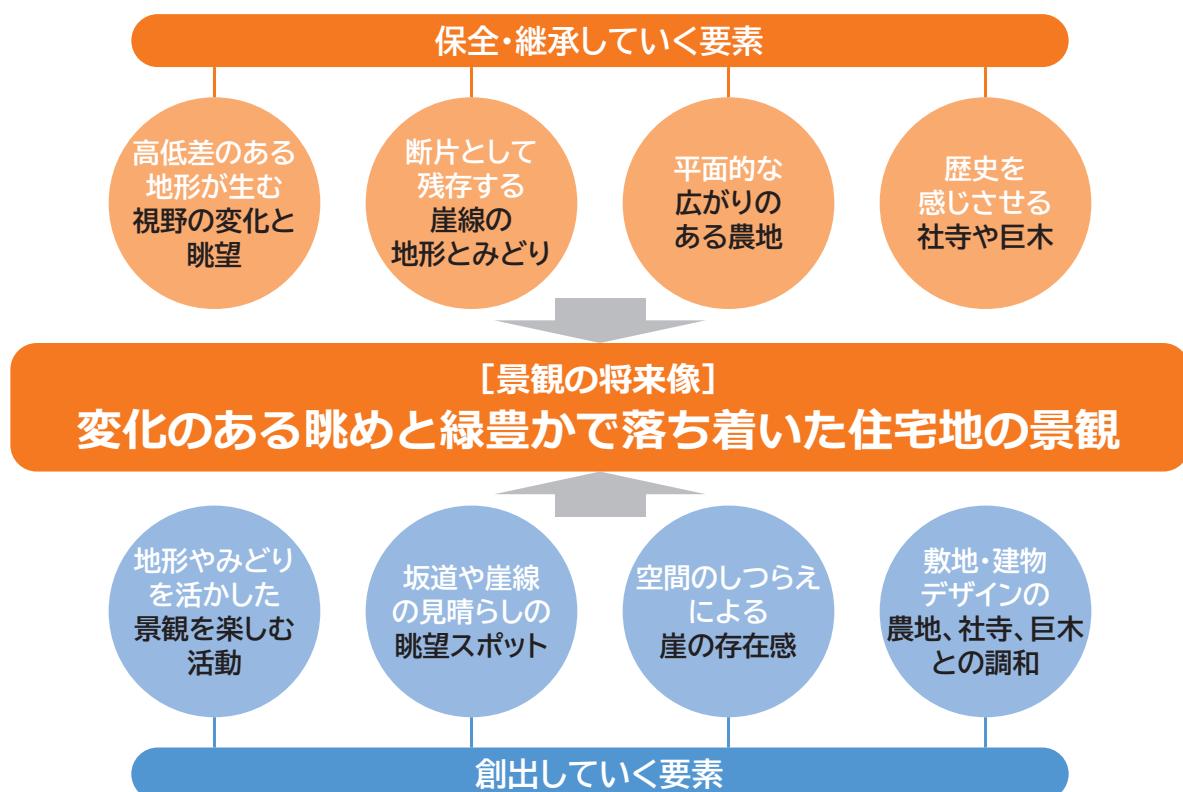
ビジョンを実現していくためには、それぞれの主体ができる具体的な取り組みを進めていくことが必要です。このパートでは、景観まちづくりの具体的なアイデアのほか、アイデアをベースにしたルール案、活用可能な支援制度などを掲載しています。



2-2 景観まちづくりの方向

(1)景観の将来像

本地区の景観資源を保全し継承しながら、それらと調和し魅力を引き立て、魅力を享受できる環境を創出していくことにより地域らしい景観をつくっていくものとし景観の将来像を以下のように定めます。



(2)景観まちづくりの方針

目指すべき景観の将来像の実現に向け、以下の方針に沿って景観まちづくりを進めていくものとします。

方針①地形による変化のある眺望を活かした景観づくり

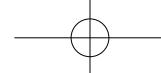
高低差のある地形が生み出す変化のある眺望が本地区の景観の大きな特徴です。このため、こうした眺望を日常的に楽しんだり、意外な眺望に出会うことができる景観まちづくりを進めていきます。

方針②崖線のみどりや農地のみどりに親しむ・楽しむ景観づくり

魅力的な要素になっている崖線や農地は地区内にばらばらに存在しています。このため、これらの魅力資源を身近に感じ、触れられる景観まちづくりを進めています。

方針③歴史・文化を感じさせる深みのある景観づくり

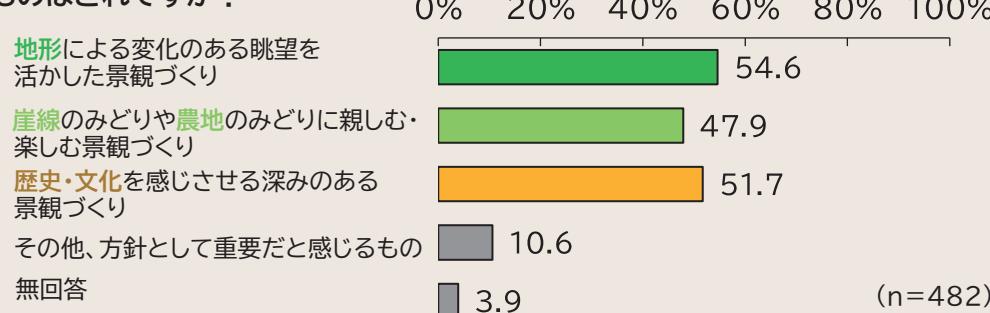
由緒ある神社や参道の巨木は本地区の歴史と伝統文化を感じさせるものです。このため、歴史の再発見を促し、培われてきた文化に触れるができる深みのある景観まちづくりを進めています。



アンケート結果

地区のみなさんに景観まちづくりの方針について尋ねたところ、いずれの方針も約半数の方が重要と回答されました。

Q: 地区の景観まちづくりの方針を次のとおり定めていますが、これらのうち、重要だと思うものはどれですか？

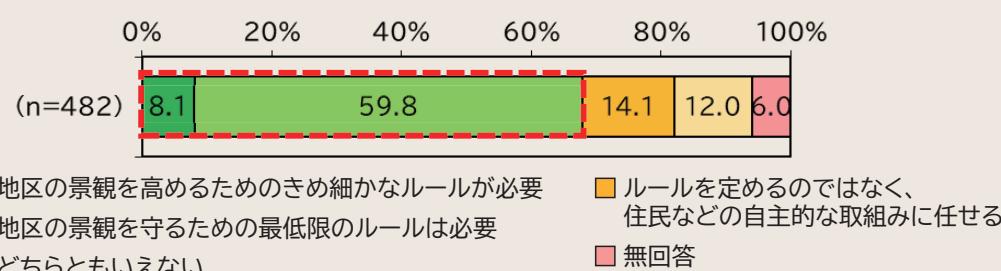


景観まちづくりの方針を実現するにあたって、具体的なアイデアやルールが必要になります。

そこで、地区の皆さんに景観のルールについての必要性についてお尋ねしました。

地区のみなさんに景観のルールについて尋ねたところ、約7割の方がルールは必要であると回答されました。

Q: 赤塚四・五丁目地区においても景観に関する独自のルールを定める必要があると考えますか？



景観まちづくりの方針を実現する具体的な景観に関するルールやアイデアを
以降のページでお示ししています。

3. 赤塚四・五丁目地区景観まちづくりプラン－アクション編－

3-1 景観まちづくりの取り組みアイデア

(1) 地区の特徴的な景観の魅力をより引き出すデザインアイデア

方針① 地形による変化のある眺望を活かした景観づくり

[対象敷地：崖線の周辺、区民に親しまれている坂道の周辺]

- ・赤塚氷川神社周辺の坂道や出口坂などの住民に親しまれている坂道周辺では、坂道からの眺めに配慮した建築物の配置・高さとする。
- ・坂道の眺望の魅力を高めるために、坂道に面して緑化する。
- ・屋根は坂道から見下ろした際に目立たない色彩とする。
- ・擁壁が生じる場合は圧迫感が生じないように工夫する。

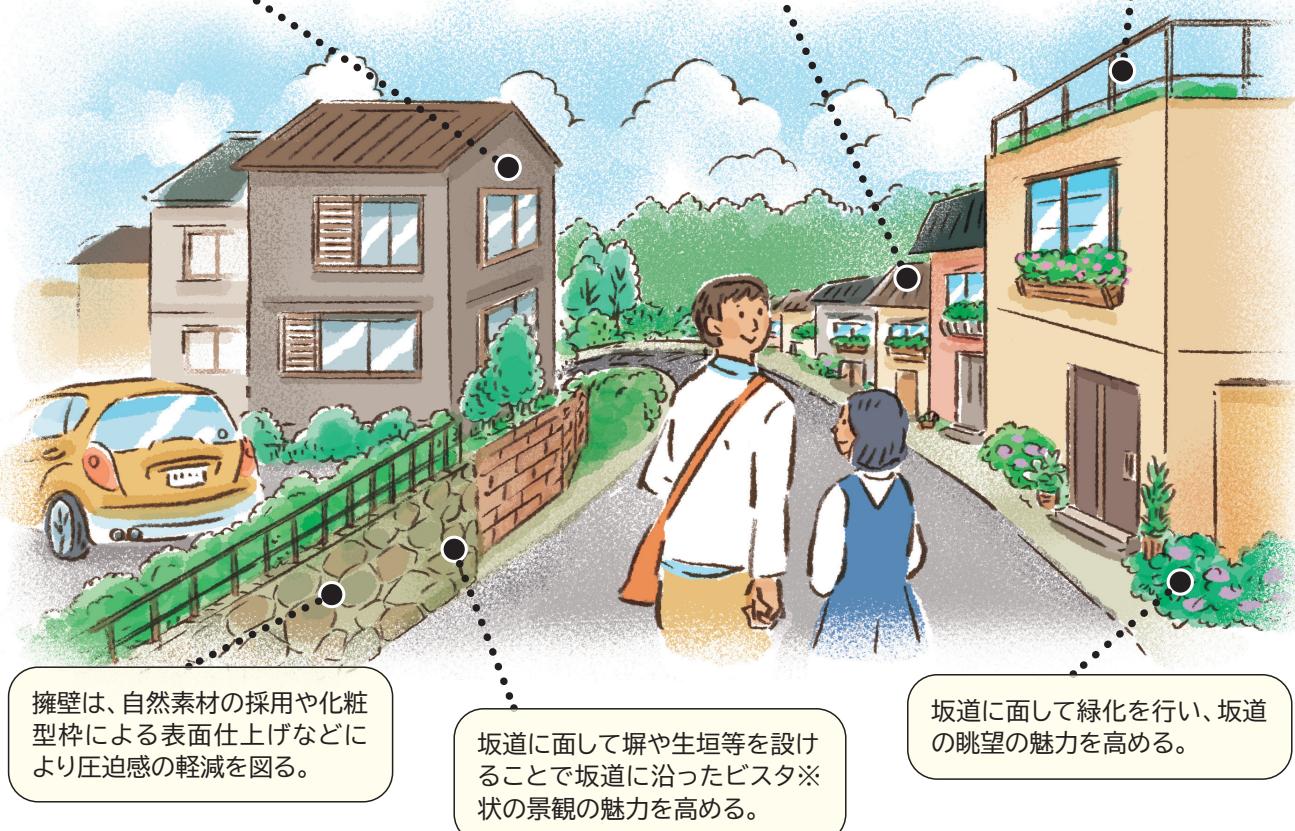
例えばこのような
デザインアイデアが
あります！

イメージイラスト

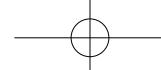
建築物の外壁は見下ろす眺望の魅力を高めるため、地形をはじめとする周辺のまちなみと調和する落ち着いた色彩を用いる。

見下ろした際の眺望の魅力を高めるため、屋根には落ち着いた色彩を用いる。

坂道の勾配に沿ったスカイラインの形成に配慮した建築物の高さとする。

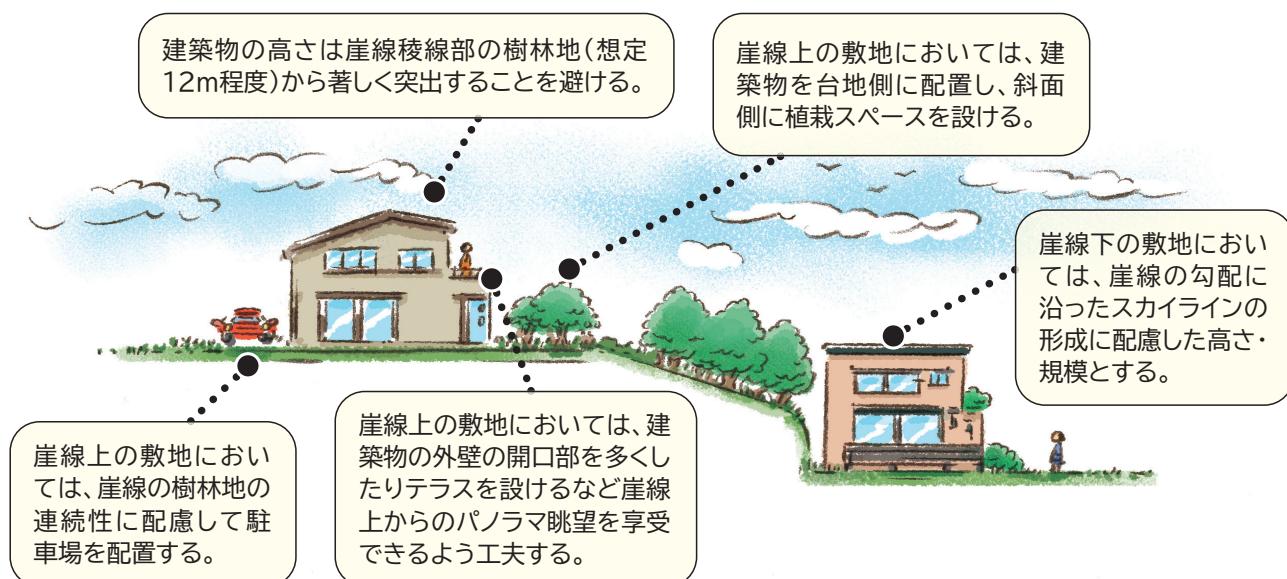


※ビスタ：真っすぐに伸びる街路の両側に並木や建築物群が並ぶことでつくられる見通しの効いた眺め



[対象敷地：崖線上・崖線下の敷地]

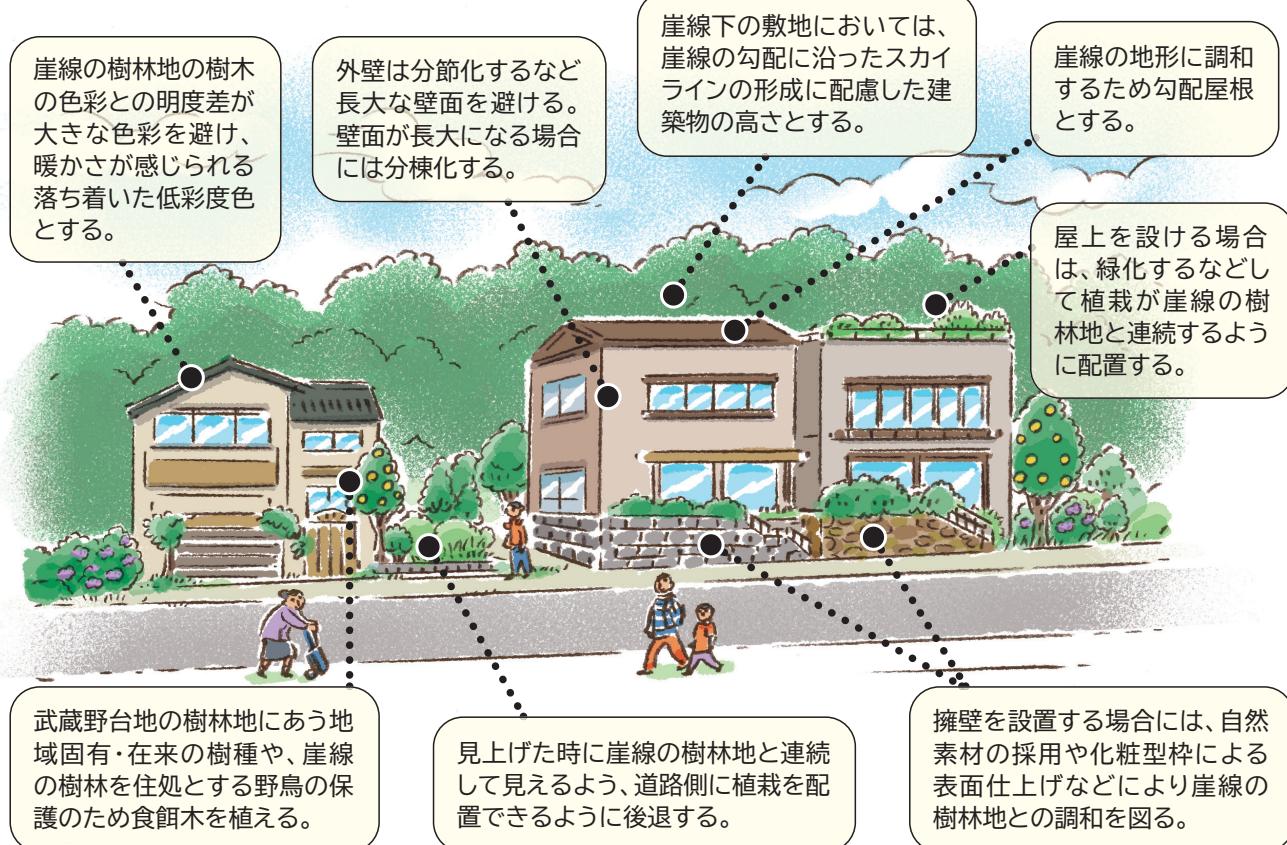
- ・崖線上の敷地においては、パノラマの眺望を享受できるような形態・意匠にする。
- ・崖線下の敷地においては、崖線の勾配に沿ったスカイラインの形成に配慮した高さ・規模とする。
- ・崖線への眺望をより魅力的にするために、崖線の周辺では緑化を行う。

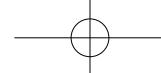


方針②崖線のみどりや農地のみどりに親しむ・楽しむ景観づくり

[対象敷地：崖線の周辺]

- ・崖線下の敷地においては、崖線のみどりと調和した建築物の配置・高さとする。
- ・崖線の緑との連続性を高めるために積極的に緑化を行う。
- ・崖線の緑と調和する素材や色彩を用いる。





[対象敷地: 農地の周辺]

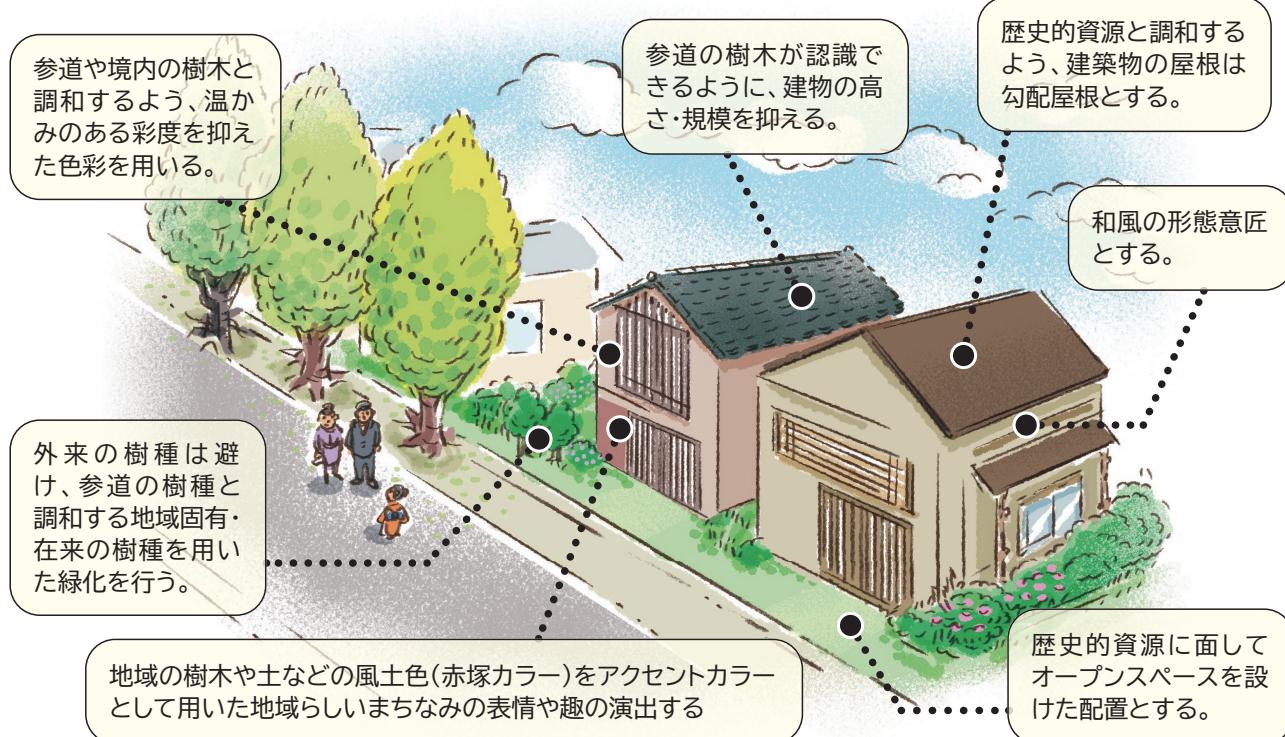
- ・農地に圧迫感を与えないよう建築物の形態や配置に配慮する。
- ・農地の赤土に調和する外壁色の色彩を用いる。
- ・農地の緑と調和するような植栽計画とする。

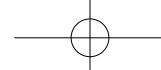


方針③歴史・文化を感じさせる深みのある景観づくり

[対象敷地: 歴史的資源周辺]

- ・参道の樹木の存在感を認識し、維持できるよう、建築物の高さや規模に配慮する。
- ・歴史的資源と調和するように形態・意匠に配慮する。
- ・歴史・文化を感じさせるまちなみづくりのための演出を行う。





(2)共通の景観まちづくりの取り組みアイデア

○風土色(赤塚カラー)を活かした色彩まちづくり

地域によって気候や地勢が異なるため、土や樹木、花々の種類も異なり、それが地域の風土となっています。風土色とは風土の違いによって生まれる、土地に特有の色彩を指します。赤塚四・五丁目地区の風土色を「赤塚カラー」と名付けました。

「赤塚カラー」は地域らしさを表す色彩でもあります。

①地域の景観の基調となる色彩

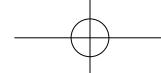
・土壤の色彩や地表近くの樹皮色は、地域の景観の基調となる色彩です。

風土を表す自然	土壤色 (赤塚四・五丁目農園、農業体験農園等)	樹皮色 (赤塚氷川神社参道樹木等)
写真		
マンセル値※1 (色彩)	乾いた土: 7.5YR7/3 7.5YR5/3 湿った土: 7.5YR5/2 10YR4/3 	サクラ: 2.5Y3/2 イチョウ: 2.5Y6.5/1.5 ヒマラヤラスギ: 5Y5/2 ケヤキ: 10YR7/0.5

②地域の印象的な色彩

・季節によって移ろう新緑の葉色や紅葉の葉色は地域の景観を象徴的に見せる色彩です。

風土を表す自然	葉色 (赤塚氷川神社周辺樹木等)	紅葉葉色 (赤塚氷川神社周辺樹木等)	花卉色 (赤塚氷川神社周辺植栽等)
写真			
マンセル値 (色彩)	サクラ: 5GY5/4 イチョウ: 7.5GY5/2 ヒマラヤラスギ: 10GY5/4 ムクノキ: 10GY7/4 	ムクノキ: 5Y7/6 ケヤキ: 2.5YR5/6 	花色: 10B8/4 花色: 5RP5/6



勉強会「赤塚カラー」を探す取り組み

景観まちづくりプランを検討する過程で、地区のみなさんが気軽に参加できる景観まちづくりに係る勉強会を開催しました。4回目の勉強会では、赤塚四・五丁目地区の風土色を探すまちあるきを実施しました。

参加者みんなで色彩を測るものさし(色票)で色測の練習をしてから、赤塚らしい風土色を探しながら測色調査に取り組んでみました。



色を測るものさし
『見本帳』



古くからある蔵の土壁の
色も風土色です



魔除けや祈願する際の象
徴として朱色が使われて
います



農地や路面の土の色も測
色してみました

【赤塚カラー活かした色彩による景観づくり】

赤塚カラー(基調となる色彩)と馴染む色彩をベースカラーとする

- ・建物の外壁のベースカラー(最も面積の大きな色彩)には周辺の自然やまちなみと調和する低彩度色を用います。低彩度色の中でも、赤塚カラー(基調となる色彩)と調和する色彩を推奨します。
- ・推奨するベースカラーとして以下のような色彩があげられます。



5Y6.5/1 2.5Y6/2 10YR6/2 7.5YR5/3 7.5YR6/4 10YR6.5/2



低彩度の色彩を基調としている
まちなみの例

赤塚カラー(印象的な色彩)をアクセントカラーに用いる

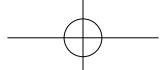
- ・建物の外壁には、まちなみから突出するような鮮やかな色彩や対比の強い配色を避けます。
- ・アクセント色を用いる場合は、季節によって移ろう樹木の葉色や紅葉の葉色を参考色として、ベースカラーと調和するように彩度を抑えた色彩(彩度6以下)を小さな面積(外壁各面の1/20以下)に集約して用いて、まちなみの演出に貢献します。
- ・推奨するアクセントカラーとして以下のような色彩があげられます。



アクセントカラーを小面積で
建物外観等に用いている例



5Y7/6 2.5YR7/6 2.5YR7/6 10YR7/6 5GY6/4 7.5GY5/2



○建物や擁壁の圧迫感を軽減するルール作り

擁壁は勾配をつけたり階段状にするなど、圧迫感を軽減するしつらえを検討する



※他都市事例

○みどりの多いまちなみづくりのためのルール作り

視界に入る緑の量を増やすために、植え方を工夫する



(出典)西宮市景観計画

隣近所と協力して美しい緑のまちなみをつくる



協定により敷地際を緑化している例(戸田市・三軒協定)

○みどりを育てる活動・ルール作り

地域での落ち葉の清掃など
緑の維持管理活動の推進

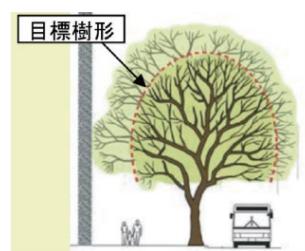


区民農園の美しい維持管理
推進



(出典)東京都都市整備局 農の風景育成地区制度 HP

樹木の形を活かした剪定



(出典)芦屋市街路樹更新計画

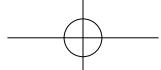
○地域の魅力をより高める取り組み

地域の特徴である坂道や歴史を
発信するマップづくり



景観の魅力や課題を発見する
まちあるきイベント





3-2 景観まちづくりのルール案

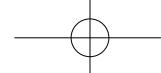
本地区の景観の将来像や景観まちづくりの方針を実現していくにあたり、勉強会やアンケートでの意見を踏まえて景観まちづくりのルール案を作成しました。

【共通ルール案】

全般	<ul style="list-style-type: none"> ・崖線や坂道などの公共空間と一体となったまちなみの形成に配慮する。 ・建築物の高さや規模、壁面の位置、形態・意匠などの工夫により周辺のまちなみとの調和を図る。 ・分節化など形態意匠の工夫や素材感のある材料の採用などにより壁面の圧迫感を軽減する。
色彩	<ul style="list-style-type: none"> ・屋根は周辺から突出しないように明度や彩度を抑えた色彩とする。 ・外壁のベースカラーは赤塚カラー(※1)と馴染む色彩など、周辺の自然やまちなみと調和する低彩度色を用いる。 ・外壁にアクセント色を用いる場合は、赤塚カラーなどの周辺の自然やまちなみには影響を与えない色彩を用いて本地区らしいまちなみの表情や趣がある演出に配慮する。
外構・緑化等	<ul style="list-style-type: none"> ・柵や垣・柵を設ける場合は、通りからの見通しを確保して圧迫感を軽減する。 ・道路から見える部分に植栽・生垣などの緑を設けて沿道を緑化する。 ・地域のシンボルになっている樹木は樹形を活かした剪定など見え方に配慮する。 ・フラワーポットなどの小さな緑の配置により緑の連続性を確保する。 ・大規模な擁壁や法面を避けるとともに、緑化、自然素材の採用、表面仕上げの工夫などにより圧迫感を軽減する。 ・駐車場は通りから目立たないよう工夫し、空き地となった場合は緑地としての活用に努める。

【方針別追加ルール案】

	方針① 地形による変化のある眺望 を活かした景観づくり	方針② 崖線のみどりや農地のみどりに親しむ・ 楽しむ景観づくり	方針③ 歴史・文化を感じさせる 深みのある景観づくり
対象 敷地	<ul style="list-style-type: none"> ・崖線や坂道に面する敷地 ・崖上や坂上から見下される敷地 	<ul style="list-style-type: none"> ・崖線や農地に近接する敷地 	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的建築物の周辺の敷地
配置・ 高さ・ 規模	<ul style="list-style-type: none"> ・坂道からの眺めに配慮した建築物の配置とする。 ・崖線や坂道の勾配に沿ったスカイラインの形成に配慮する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・崖線の樹林地と連続して見えるよう植栽スペースを配置する。 ・農地に面してオープンスペースを設け、圧迫感を与えない建築物の高さや規模とするなど農地との調和に配慮する。 ・崖線上の敷地では、崖線稜線部の樹林地から著しく突出しない建築物の高さとし、やむを得ない場合は上層部を崖線側から後退させる。 ・崖線下の敷地では、勾配に沿ったスカイラインの形成に配慮した建築物の高さとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・神社や参道などの歴史的資源に面してオープンスペースを設ける。 ・参道の樹木の存在感を認識できるよう、建築物の高さや規模に配慮する。
形態・ 意匠	<ul style="list-style-type: none"> ・見下ろす眺望の魅力や地形との調和に配慮して勾配屋根とする。 ・崖線上の敷地では、外壁の開口部やテラスの設置により眺望を享受できるよう工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・崖線下の敷地では、沿道からの崖線の樹林地の見え方に配慮した建築物の形態や配置とする。 ・農地に近接する建築物では、農地に圧迫感を与えないよう建築物の形態や配置に配慮する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・和風の形態意匠となり、木材や石材などの自然素材を用いる。 ・建築物の屋根は勾配屋根とし、歴史的資源と調和させる。



	方針① 地形による変化のある眺望 を活かした景観づくり	方針② 崖線のみどりや農地のみどりに親しむ・ 楽しむ景観づくり	方針③ 歴史・文化を感じさせる 深みのある景観づくり
色彩	<ul style="list-style-type: none"> 建築物の外壁の色彩は、見下ろす眺望の魅力を高めるため、地形をはじめとする周辺のまちなみと調和する落ち着いた色彩を用いる。 屋根の色彩は、落ち着いた色彩を用いる。 	<ul style="list-style-type: none"> 崖線に近接する敷地の建築物の外壁は、崖線の樹林地の樹木の色彩との明度差が大きな色彩を避け、暖かさが感じられる落ち着いた低彩度の色彩を用いる。 農地に近接する敷地の建築物の外壁は、農地の赤土の色(赤塚カラー(※1))に調和するよう、温かみのある彩度を抑えた色彩を用いる。 	<ul style="list-style-type: none"> 歴史的建築物に近接する敷地の建築物の外壁は、参道や境内の樹木の色彩(赤塚カラー(※1))と調和するよう、温かみのある彩度を抑えた色彩を用いる。
外構・ 緑化等	<ul style="list-style-type: none"> 塀は、自然素材を採用することなど、坂道の眺望の魅力を高める。 坂道に面して緑化を行い坂道の眺望の魅力を高める。 駐車場は配置の工夫や植栽による目隠しにより坂道の眺望の魅力を高める。 坂道に面して塀や生垣等を設けるなどしてビスタ状の景観の魅力を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 農地に近接する敷地では、農地の緑と調和するよう敷地の周囲を緑化する。 敷地内や屋上などを緑化し、崖線の樹林地と連続して見えるようにする。 武蔵野台地の地域固有・在来の樹種や湿気に強い樹種(※2)を用いる。 崖線に近接する敷地では、食餌木(※3)など生態系との調和に配慮した植栽とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 参道の樹種と調和する地域固有・在来の樹種を用いる。(※2) 参道から目立たない位置に駐車場を配置したり、目隠しとなる低木や生け垣を設けるなど歴史・文化資源との調和を図る。

※1 赤塚カラー

赤塚地域の樹木や土などの風土色(14、15ページ参照)

板橋区HPで公開
しています！

※2 地域固有・在来樹種、湿気に強い樹種の例

都立赤塚公園内の樹種：サクラ、ケヤキ、ムクノキ、エノキ、マテバシイ、シロダモ、ミズキ、モクセイ、アジサイ、ツツジ、タケ、ウメ

湿気に強い樹種：イロハモミジ、シデコブシなど

※3 食餌木の例

春から夏に実のなる木：キイチゴ類、ユスラウメ、ニワウメ、ナツグミ、クワなど

秋に実のなる木：アオキ、ウメモドキ、ソヨゴ、ナンテン、ニシキギ、マユミ、モチノキ、ヤマボウシなど

みどりのヒント集

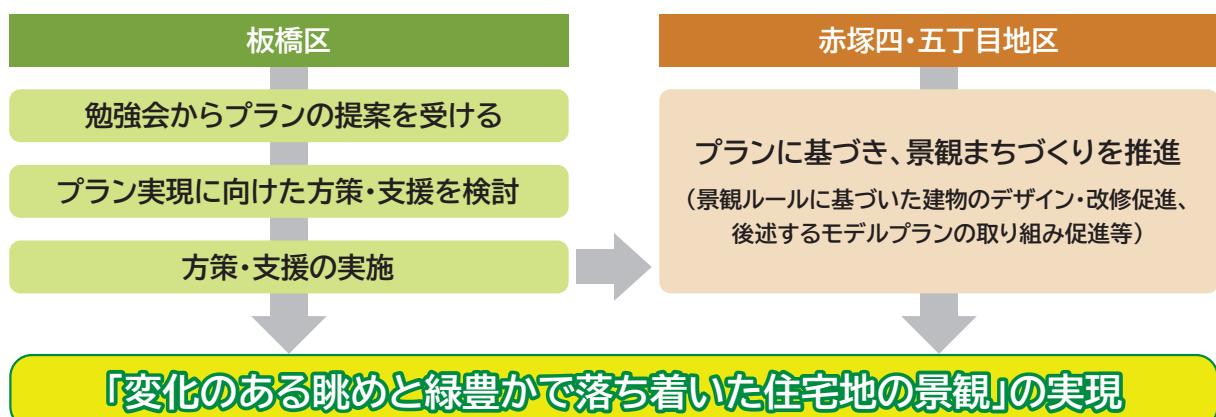
一覧表	… P.2
□第1章 共通事項	… P.2
1-1 施策の考え方	… P.2
1-2 施策の目標と位置づけ	… P.4
1-3 実現目標	… P.4
1-4 施策の実施方法	… P.6
□第2章 調査・評価の方法等におけるシート	… P.7
2-1 「樹木以上植物」の内容	… P.7-10
2-2 「樹木以下植物」の内容	… P.11-17
□第3章 緑化施設整備地におけるシート	… P.12
3-1 施設の位置	… P.12
3-2 施設の特徴	… P.12
□第4章 建築地におけるシート	… P.14
4-1 建築地の位置	… P.14
4-2 建築地の特徴	… P.15
□第5章 その他	… P.16
□付録	… P.17
□おわりに	… P.17

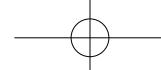
板橋区

昭和24年3月

【出典】板橋区『みどりのヒント集』

景観まちづくりプランを使った今後の景観まちづくりの進め方





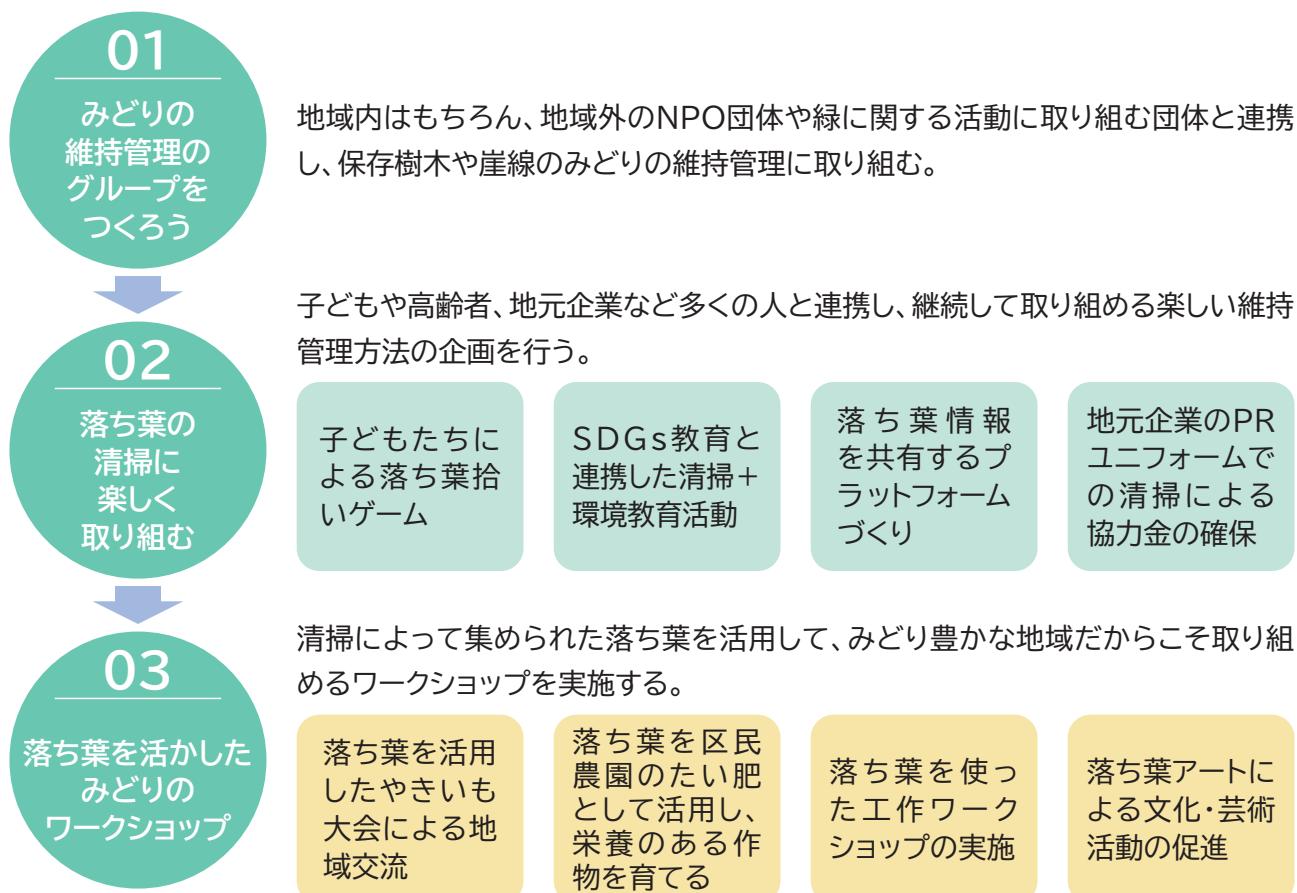
3-3 景観まちづくりのモデルプラン

継続的な景観まちづくりのためには、地域が主体となった取り組みを進めていくことが大切となります。ここでは、それら取り組みの参考となる例(モデルプラン)を示します。

みどりの維持管理を活かして地域の魅力を高める取り組み

みどりのクリーンアップイベント活動

豊かな緑は地域の特徴の一つですが、落ち葉の清掃などの維持管理が負担であるとの声も聞かれます。そこで、落ち葉の清掃と併せて豊かな緑の魅力を楽しく再確認できる取り組みを行います。



「板橋区環境教育プログラム」を活用した落ち葉をつかった教育イベントの実施

板橋独自の情報や特性も踏まえて開発した環境教育のためのプログラムです。「進め方」、「使用するもの」、「留意事項」などをわかりやすく掲載し、「ワークシート」などもダウンロードして使用できるため、環境教育に対する知識や経験が少ない指導者の方でも実施できます。

板橋区環境教育プログラム(板橋区HP参照)

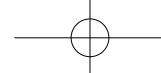
<https://www.city.itabashi.tokyo.jp/bousai/kankyo/kyoiku/1015347/index.html>



子どものための落ち葉プール



落ち葉のランチョンマットづくり



地形の豊かさを活かして地域の魅力を高める取り組み

地形を愛するまちあるきクラブ

高低差のある地形や暗渠の小径は地域の魅力の一つですが、身近にあることから気づきにくい面もあります。そこで、高低差や小径の魅力に気づくきっかけとなるまちあるきの取り組みを行います。

01

地形の魅力を 引き出す 企画づくり

本プランや過去のまちあるきの結果等から地形の魅力を確認し、魅力を活かしたまちあるきルートの開発を行う。



地域の小動物や生き物をウォッチングできる小径ルートの開発



水の音や木々のざわめきの音を楽しむルートの開発



子どもを対象としたまちあるきスタンプレリーの開発



フムフム赤塚 project でのまちあるきルート



02

地形の魅力を 伝える「ひと」 づくり

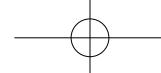
子どもや高齢者、地元企業など多くの人と連携し、継続して取り組める楽しい維持管理方法の企画を行う。

地域内外の赤塚地域マニアによるまちあるきグループの設立

まちあるきルートマップづくり

まちあるきガイド養成講座・勉強会の実施

地形マニアのゲスト講師の招聘



板橋区内のガイド団体

○いたばし観光ボランティア
「もてなしたい」

○緑のガイドツアー
(区民ボランティア)



実際に参加し、
ガイドの方法を学ぼう！

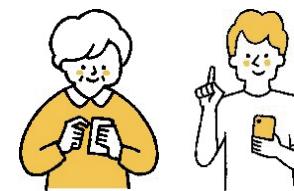
03

まちあるきを
発信し地域の
ブランドを
高める

まちあるき
動画の作成

地形を活かしたマップ作りの事例

坂道にキャッチャーな
名前を付けたり、地
形に関するエピソードを盛り込み読んで
楽しい地図に編集。
(出典:上井草商店街振興組合)



動画編集+動画配信サービスでの公開



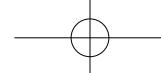
地域外にもまちあるきの様子を発信し、地域のファンをつくる。
(第1回フムフム赤塚project のまちあるき動画)

アンケート結果

地区のみなさんに景観まちづくりの活動意向について尋ねたところ、もっとも取り組んでみたい活動として緑の維持管理があげられました。

Q: 景観まちづくりに関する活動のうち、興味・関心のある内容はどれですか？(複数回答)

- 1位 地区の緑の維持管理を通じて地区の魅力を高める取り組み(46%)
- 2位 地区の歴史を付け継ぐシンボル的樹木の保存の取り組み(36%)
- 3位 地区の特徴でもある地形の魅力を高めるための取り組み(33%)
- 4位 地形・みどり・歴史を活かした建物デザインの取り組み(28%)



3-4 景観まちづくりの取り組みに向けて

赤塚四・五丁目地区での景観まちづくり活動やみどりの維持管理・整備に活用可能な補助制度は下記のとおりです。そのほかにも、以下に示すクラウドファンディングなどの仕組みを活用して、地域主体となった取り組みを進めます。

地域の魅力を高める取り組みのための補助制度

住まいとコミュニティづくり活動助成

地域コミュニティの創造・活性化等に関する活動に対する助成金制度
(ハウジングアンドコミュニティ財団)

子供たちの環境学習活動に対する助成

緑化や自然体験などの環境学習活動への助成金制度
(公益財団法人高原環境財団の補助事業)



みどりの維持管理・整備のための補助制度

保存樹木助成

保存樹木の管理や剪定に対する助成金制度
(板橋区)

環境市民活動助成

地域の清掃活動や苗木・草花の植樹活動に対する助成金制度
(一般財団法人セブンイレブン記念財団による独自助成)

接道部緑化助成

接道部の埋め込み地に樹木を植栽する工事についての助成金制度
(板橋区)

屋上緑化助成

屋上緑化に係る基盤の整備及び植栽工事に対する助成金制度
(板橋区)

クラウドファンディングによる地域主体の取り組み

景観まちづくりを進めるうえで、資金調達の方法は多様化しています。補助金以外にも、クラウドファンディングのようなインターネットを通じ資金調達を行うことも考えられます。クラウドファンディングは融資と異なり支援金の返済リスクがなく、地域内外の方に発信・協力を求めることができるツールです。

現在の取り組み等にプラスαした景観まちづくり

自治会やPTA組織などで既に取り組んでいる地域行事やまちづくり活動に合わせて景観まちづくりの取り組みを実践することで、地区の景観の魅力向上を図ります。

また、景観まちづくりの実効性を持たせるために、まちづくり勉強会を「板橋区都市づくり推進条例」に基づくまちづくり協議会に発展・展開による住民主体の自主的な活動促進と、景観形成重点地区指定に伴う区による事前協議の両輪によって、目指すべき景観まちづくりを推進していきます。



子供たちに届けたい! ぜひご協力ください。

クラウドファンディングサイト「READY FOR」を活用した荒川区のまちづくり団体によるプロジェクト

【出典】
<https://readyfor.jp/projects/arakawaKARUTA>



赤塚四・五丁目地区景観まちづくりプラン

令和7年3月
赤塚四・五丁目地区景観まちづくり勉強会
協力:板橋区